



2020年 佐々木社長新年挨拶

1月6日午後3時から放送センターにて、「2020年新春パーティー」が開催され、佐々木卓社長が以下のような新年の挨拶を行いました。

皆様あけましておめでとうございます。年末年始の番組に関わった全てのスタッフの皆様本当にお疲れさまでした。『グランメゾン東京』の最終回、有終の美を飾りました。『報道の日』『レコード大賞』『ニューイヤー駅伝』。恒例の番組も大健闘いたしました。お正月の『義母と娘のブルース SP』は高視聴率でしたし、『マツコの知らない世界』は三が日で初めて放送しまして、こちらも大成功いたしました。『ドリーム東西ネタ合戦』『炎の体育会 TV』などお疲れさまでした。

そして『ひるおび』は年間で横並びトップということでございます。おめでとうございます。帯番組は一年中気を抜くひまがなくて、本当に大変で頭が下がる思いであります。年末年始、『逃げ恥』『アンナチュラル』『99.9』『ノーサイド・ゲーム』の一举放送を見て、胸が熱くなりました。これらの一举放送は、Paraviの加入促進にも大いにつながっています。今年にはさらにParaviの加入を増やしたいと思っていますところであります。

年頭ですので今年の方針の話をします。

いよいよ今年には東京オリンピック・パラリンピックの年であります。

「テレビの力」を見せるためにも全力投球しなくてはなりません、私がお話したいのはその先のこと。来年の正月の話です。来年の正月の話、となると、鬼も大爆笑するかもしれません、来年、我々TBSは開局70周年を迎えます。来年のちょうど今頃、70周年の記念イベントがスタートしている頃かもしれません。

70周年の記念イベントには2つの意味合いがあります。

1つはTBSのブランドイメージを上げる。「ブランドとは顧客の頭の中にある良質な記憶の総和である。」という言葉を見ました。普段はできない大きな番組や素晴らしいイベントを仕掛けて、大勢の皆様にも良質な記憶を植え付けてください。

そして2つ目の目的は地上波放送の視聴率を上げるということでもあります。周年記念の特別番組だけでなく、レギュラーの番組もこの機に強化して、ファミリーコアの視聴率を上げる。多くの放送局がトップを目指して急成長するときには、この周年番組をきっかけにしたということが過去の歴史では多々ありました。そのためには今から準備をしなくてはなりません。オリンピックの後から動き出したのではもう遅い。今から懸命に考えていただきたいと思っております。

次に、今年のキーワードを話させてください。「ハンドオーバー」という言葉です。手渡すという意味ですけれども、大事なものを継承するという意味に置き換えても構わないかもしれません。私達のテレビの仕事はどんな職種であれ、一流の腕を磨いて70点。その技を後輩たちに奇麗に引き渡して初めて100点満点。私の立場でいえば、役員としては、今のTBSを成長させて70点。未来に向けて持続的にTBSを成長させて100点満点です。今は遠く及第点に及ばないので、私自身今年1年懸命に働こうと思います。持続的な成長のために、まず歴史を「継承」した後で、新たな価値を「創造」して加え、そして生まれ変わる、「再生」する。「継承」「創造」「再生」です。

「再生」ということでは、今年TBSグループに大きな動きがございます。1つは、グループの企業理念の刷新であります。「最大の放送局より、最良の放送局たれ。」これはTBSグループ創業当時の足立社長の言葉です。今、私たちを取り巻く環境は劇的に変化をしております、総合メディアグループとして、より結束力を強めていかななくてはならなくなりました。創業の精神を継承し、時代の変化に対応し、生まれ変わるために2020年4月より新しい企業理念を正式に施行してまいります。

新しい企業理念は、「TBSグループは、時代を超えて世界の人々に愛されるコンテンツとサービスを創りだし、多様な価値観が尊重され、希望にあふれる社会の実現に貢献してまいります。」というものです。

また、企業理念を実現し、私たちが社会に貢献していくうえで、ここにいるTBSグループの全員が常に心の中にとどめておくべき未来への志、お客様への大切な約束であるブランドプロミスも制定しました。

「私たちは、さまざまなフィールドで心揺さぶる時を届け、社会を動かす起点を目指します。最高の“時”で、明日^{あす}の世界をつくる。」どうか皆さん一人一人、胸に刻んでおいてください。

さらにTBSグループのブランドロゴも新しくすることにいたしました。

これらの新しいTBSの旗を先頭に掲げて、私たちは一つにまとまって、歩き出しましょう。



以上